

### ①分科会会合の開催

- スマートシティ官民連携PFにおいてガイドブック分科会を設置（会員73団体122名）。これまで2度の会合を開催し、ガイドブックに関する意見交換を実施。
- 第1回（1月27日）では、61団体92名が参加。説立趣旨およびガイドブック骨子の説明、参加者からの取組事例発表、グループディスカッション(ガイドブックへの意見・提案)を実施。
- 第2回（2月4日）では、62団体 85名が参加。取組事例発表、グループディスカッション（財政面やデータの利活用等にかかる課題）を実施。

### ②Decidimを通じた意見・提案募集

- 2月1日～2月24日まで、「アイデア募集フェーズ」としてオンラインプラットフォームDecidim上でガイドブックに対する意見を募集。
- ガイドブック骨子案に対し、59件のご意見の投稿が寄せられた。
- 改訂版のガイドブック素案を3月中旬に再度掲載し、ご意見募集を実施予定。

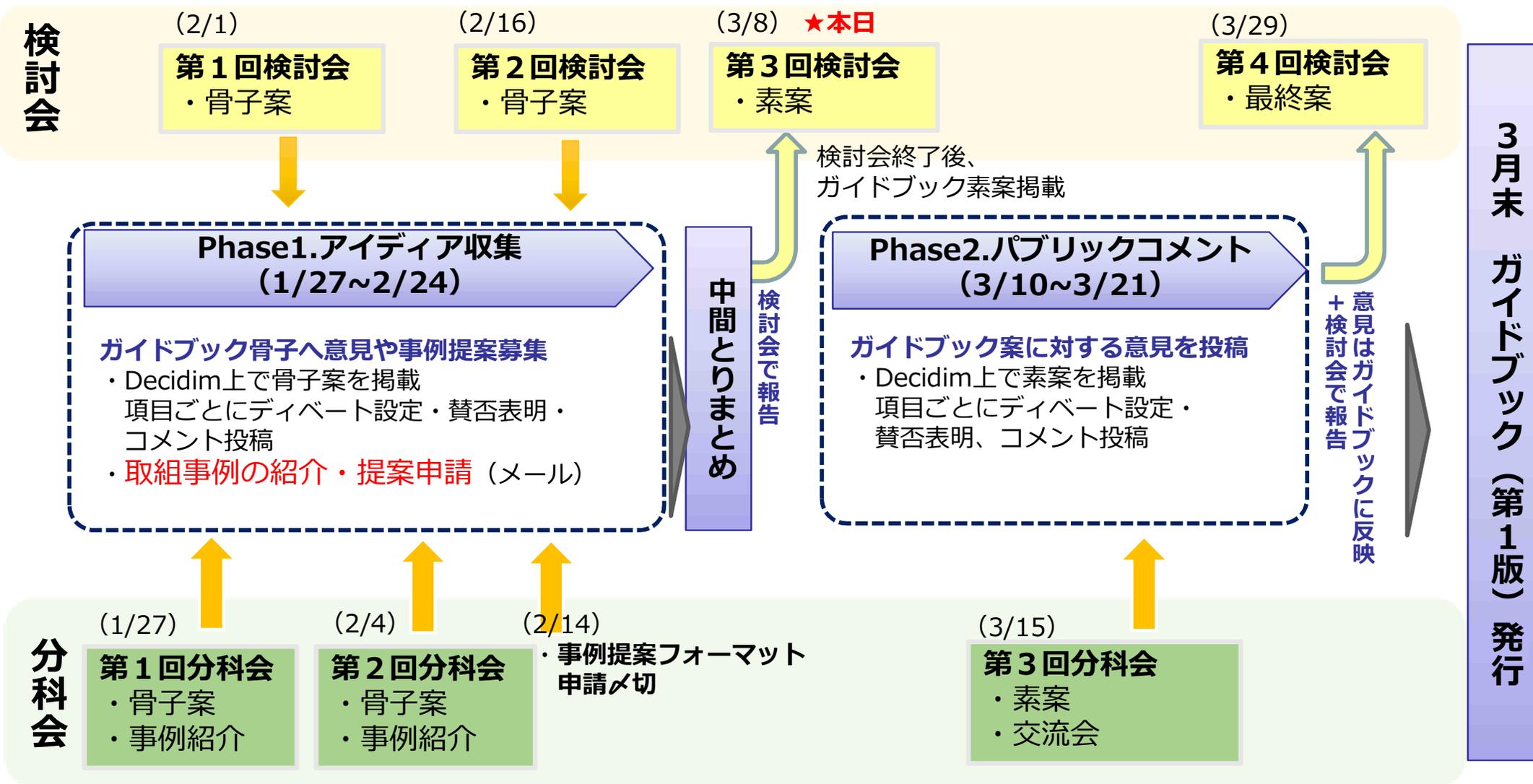


### ③事例提案フォーマットを通じた意見・提案募集

- 2月1日～2月24日まで、ガイドブックに掲載したい事例の提案を募集し、25の取組事例の提案が寄せられた。
- 頂いた事例提案は、HP上で紹介するほか、ガイドブックにも可能な限り掲載。

# ガイドブック策定の進め方

- 2つのPhase（アイデア収集（1-2月）、パブコメ(3月)）を経て3月末に第1版発行
- 骨子案・本文案はDecidim上で共有し、検討会・分科会メンバーからコメント投稿



- ・ 分科会で出た意見は、事務局でDecidimに投稿 ※発言意図と違った場合はコメントで補足説明
- ・ メールで提出いただいた事例は、とりまとめののち、Decidimに掲載+検討会で紹介  
→優れたものは、ガイドブック本文中に掲載

# スマートシティガイドブック分科会 第1回 開催概要

- 主催：スマートシティ官民連携PF事務局（内閣府・総務省・経済産業省・国土交通省）
- 日時：2021年1月27日(水) 10:00～12:00（120分）※Web開催
- 議事：説立趣旨およびガイドブック骨子の説明、参加者からの取組事例発表、グループディスカッション
- 参加者：61団体 92名が参加（自治体11団体、民間企業50団体）

## 第1回分科会で出た主な意見

### <スマートシティの意義・必要性>

- ・現状抱える課題とスマートシティのビジョンとの繋がりが重要。
- ・住民目線・主体のビジョンの策定が必要。
- ・自治体、住民に加えサービサーが入ることで、課題を相談できる体制ができることが一番のスマートシティのメリットと感じる

### <機能的、機動的な推進体制の構築>

- ・行政、民間、住民の役割分担が重要
- ・協議会という形式ではなく、その持続可能性が重要。利益を生み出し、持続性を持たせる体制の構築が重要。
- ・各企業が強みを活かし何をやりたいのか、何を担うのかを明確にした上で、協議会として共有することが実行力のある組織のためには必要。
- ・スマートシティアーキテクト等体制に必要なスキルセットを定義できるとよい。

### <ガイドブック全般にかかる意見>

- ・具体的なスマートシティビジョンを地域で共有できる事例が欲しい。
- ・進め方のステップや体制について、読み手が自身の都市規模や特性、取組段階に合わせて選べるよう、複数パターン示されると良い。

## 今後の予定

分科会の意見を集約しガイドブックに反映

- ・3月中旬まで、検討会と並行する形で全3回の会合を開催予定
- ・オンライン上のプラットフォーム「Decidim」を活用し、より幅広い意見や提案の募集を行う



# スマートシティガイドブック分科会 第2回 開催概要

- 主催：スマートシティ官民連携PF事務局（内閣府・総務省・経済産業省・国土交通省）
- 日時：2021年2月4日(木) 14:30～16:00（90分）※Web開催
- 議事：参加者からの取組事例発表、グループディスカッション（財政面やデータの利活用等にかかる課題）
- 参加者：62団体 85名が参加（自治体11団体、民間企業51団体）

## 第2回分科会で出た主な意見

### <財政的持続性にかかる課題>

- ・データ活用だけでは収益に結び付きづらい。
- ・イニシャル費用・投資の回収計画が見通せないため、実行に踏み切れない。
- ・個々の民間事業者サービス単体では事業収支が難しいので、規模共通の取組は必要かもしれない。
- ・都市OSなど、スマートシティに関わる様々なプレイヤーが共通的に使うものを民間がイニシャルコストを持って構築するのは難しい。
- ・イニシャルは補助金が活用できたとしても、ランニングコストを考えていく時に回らなくなることもある。
- ・儲からない状況の中で、費用負担者が不明瞭。
- ・自治体予算が単年度主義であるのに対し、PFIなら複数年度できるので、既存の制度をうまく活用できるとよい。
- ・安定的な予算の確保に向けては効果の定量化が必要だが、その効果の実証が難しい。

### <データの利活用にかかる課題>

- ・データについては、シミュレーション等の利活用を考えると長期的な取り組みが必要だが、短期的な取組になりがちである。
- ・データの標準化やクレンジング作業が非常に大変。
- ・利用者から見て、データ利活用への不安がぬぐい切れない。
- ・各社の持つデータの連携がなかなか進まない。

### <スマートシティの進め方にかかる課題>

- ・自治体が、これをやりたいというところにフォーカスできると良い。
- ・ソリューションありきではなく、ビジョンありきの調達ができるとうい。
- ・地元の企業が参加できるテーマ、取り組みが大事。
- ・協議会の設置にあたっては、ビジョンをちゃんと作ったうえで、そのビジョンができる人を公募する等、柱を立ててからやるというのではないか。広がりすぎてまとまらず総花的になることもある。
- ・個別のプロジェクトごとに取組がバラバラになっている。
- ・企画を具体的なPOCに落とし込んだ際に、落とし込んで実現を牽引できる人材がなかなかいない
- ・スマートシティ構築の企画・データ利活用を統合的に社会実装にむけて牽引する人材がなかなかいない